
まちがいメール

生成 環

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

まちがいメール

【Nコード】

N4997C

【作者名】

生成 環

【あらすじ】

オレのところに来た、まちがったメールが毎日くる。だが、そのメールの内容に戦慄が走った。

（前書き）

夏ホラー2007に書いたホラーです。

『あなたはやく、海に来てね。娘も待っているから』
こんなメールが、オレの携帯に来了。

「あれえ、係長は、結婚してたのですか」

「イヤイヤ、オレは独身だよ。誰かが間違つて、オレのところ
にメールをしたんだろう。それはそうと、聖子^{せいこ}ちゃん。今日飲み
にいかない」

「いやだあ、係長たら」

「ハハハ、冗談だよ。それはそうと、聖子ちゃん、この書類を
お願いね」

「わかりました」聖子はオレのところから離れた。

オレは、今の会社では独身といっているが、実は五年前、オレは結
婚していて、メールのあるとおり、娘もいた。

五年前、妻と娘は、事故で亡くなった。イヤ、オレが二人を殺した
のだ。

オレは、ギャンブルで借金をしてクビがまわらなくなり、保険金目
当てで、妻と娘を殺すことにした。

娘が、夏休みだから海に連れてって、といってきたので、オレは、
二人を殺すチャンスだと思った。

オレは車を持っているが、メーカー側から、ブレーキの異常が見つかったため、修理するので持って来て下さい、といってきた。オレは、絶対に警察に捕まらない、あるアイデアがうかんだ。

海に行く前に、オレは妻と娘にジュースを飲ませた。睡眠薬のはいつたジュースを……。

オレは計画通り、車を海に落とした。妻と娘は、溺れ死んだ。だが、二人はどこをさがしても見つからなかった。

保険会社は、メーカー側の不都合が原因だと信じ、オレに保険金を支払った。

その金で借金を支払いおわると、オレは前にいた会社をやめて町を出て、今の会社に再就職した。

五年前のことを、このまちがいメールで思い出してしまった。

『夏休みになったから、娘といっしょに海に遊びにいこう』

またメールがきた。これで一週間連続だった。

「係長、またまちがいメールですか。アドレスを変えたらどうです」

「実は、昨日変えたんだ。でも、また来たんだ。聖子ちゃん、これ、どうおもつかなあ……」

「さあ……、どうなんでしょう……。誰かのイタズラじゃないですか」

「このアドレス、まだ、誰にも教えてないんだけど……。聖子ちゃん、今日はどう」オレは困ったそうに、聖子にいった。

「私、部長に用があるの思い出しました。係長、また今度……」

聖子は、オレに誘われるのがイヤなのか、それともこのまちがいメールが気持ち悪いのか、オレを避けるように離れていった。

オレは、携帯の機種を変えたが、またメールがきた。さすがに、オレは気持ち悪くなった。

このメールを出した何者かが、オレのことを知っているのか。それとも、死んだ妻が出したのか……。イヤイヤ、いくらなんでもそれはないだろう。

でも、これが何日も続いたら、オレの頭が変になってしまう。オレは、お盆休みに妻と娘が死んだ海にいかうかと思った。もし海にいかば、このメールが来ないかもしれないと思ったからだ。

盆休みになって、オレは海に行くことにした。

盆休みだから、渋滞に巻き込まれ、海に行くまですごく時間がかかった。海に着いたのが夜だった。

オレは旅館を探していて、やっと見つけた旅館は、幸運にもキャンセルが出たので、部屋が空いていた。

『もうすぐ会えるね。娘も楽しみにしてるわ』

朝になって、またメールが来た。

これは本当に、妻が、オレにメールを打っているのではないのだろうか。

そんな思いが、オレの頭によぎった。

オレは、すぐに旅館をでると、海にむかった。

もうすぐ海に着くので、スピードを落とすため、ブレーキを踏んだ。

オレは焦った。ブレーキがまったくきかないのだ。このままでは、海に落ちてしまう。

携帯が鳴った。こんなときにメールがくるんだ。

スピードが落ちないまま、車が海に落ちた。

オレは携帯を見た。メールには、こう打ってあった。

『今から、娘といっしょにいくから、ちゃんと車の中で待ってて』

なにか、こっちにむかっているものがあった。

最初はなにかわからなかったが、それはよく見ると、それは、女の死体だった。

その死体が、こちらへ近付いてきた。オレは、死体の正体がわかった。

妻と娘だった……。

妻と娘の死体が、スピードをあげて、オレの車のフロントガラスに突っ込んできた。

オレは逃げなかった。

逃げられなかった。

妻と娘が、オレの体に引っ付いていたからだった。

「やっと、会えたね。娘も喜んでいるから……」

割れたフロントガラスから海水がはいつてきた。

警察が、海に落ちた車を引き揚げた。
そこには、三人がなかよくならんで座っていた。

（後書き）

締め切り二日前に、
“ まちがいメール ” が来て、これはと思い、勢
いで書きました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4997c/>

まちがいメール

2010年10月12日08時54分発行